



勝池レポート アジア資産運用アドバイザー 勝池和夫  
「BRICS, GAFAM から INDIA へ」



BRICS



GAFAM



INDIA

今から 20 年ほど前、「BRICS」という言葉が流行り出しました。5 つの新興国、ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカの英語の頭文字を並べた造語です。有力な投資先の代表として暫くは注目されましたが、その言葉はもう死語になったようです。今では、各国の経済の成長力に差がついてきたため、「BRICS のなかでは『I』だけが残った」と言われています。つまりインド経済の成長力が際立ってきています。

一方、最近では多国籍企業や世界の投資家は、ロシアのウクライナ侵攻や中国のゼロコロナ政策などを受け、両国から投資を引き揚げています。BRICS 中の投資リスクにも大きな差が出ています。この点でも、インドの安定性が再認識されています。

今から 10 年くらい前、「GAFAM」という言葉が持て囃され出しました。アメリカの大手 IT 企業、グーグル、アップル、フェイスブック、アマゾン、マイクロソフトの 5 社を表す用語です。5 社の時価総額の合計が、東証 1 部上場の 2,170 社の合計を超えたとき一時大きなニュースになりました。

しかし、最近ではこれら代表企業の成長力に差が出ています。アメリカの S&P500 指数を牽引してきたこれらの企業の株価のほとんどは、誰もが信じられないほど下落しました。GAFAM という言葉も死語になりつつあるようです。

「BRICS」も「GAFAM」も、株式市場で人気化した一つのファッションでした。元々何十年も続くスタイルではありません。人気は離散しやすいという点では、「AI」も「ESG」も同じです。ファッションは追いかけても資産形成に繋がりません。長期の資産形成に大切なのは一貫したスタイルです。

そのスタイルで、世界が今熱い視線を送っているのがインドです。インドは、人口、テクノロジー、そして民主主義という長期的な経済成長を支える強固なスタイルを持っています。更に、英語話者の増加によるインド人の国際的な影響力の高まりにも世界は目を見張っています。

インド株式市場の SENSEX 指数は 11 月に史上最高値を更新しました。世界の

経済が、コロナウイルスのパンデミックやウクライナ戦争による暗闇を抜け出せないでいる中、そして世界の株式市場が、アメリカ金利の上昇で調整を余儀なくされる中、インド株式の堅調さが抜きん出ています。

その背景には投資家心理の変化があります。インドの投資家は自国の未来に自信を深め株式市場に参入しています。多国籍企業や世界の機関投資家にとっても、長期で有望な市場が欠乏してきている今の世界で、投資先としてインドの重要性は増しています。

皆さんにとっても、世界経済が長い低成長時代に入っていくこれから、このインドというスタイルを、お守りのように金融資産の一部に備えていることが、金融資産の未来を安心にしてくれると信じます。長い「INDIA」の時代はまだ始まったばかりです。